



すみえ 純惠的
子育て親育て！“もっと”話

motto[mō:to]



石山純恵さん。福島市在住、2児の母。起業、国際結婚、離婚を経て平成20年に再起業。多言語翻訳と研修立案等の会社「クリフ」を設立。NPO法人Tomorrowに参画し、市内2か所の学童保育所を運営。福島の女性起業家として講演や研修セミナーを行うほか、子どもから企業管理職までの幅広い人材教育事業に関わる。豊富な経験を生かし多方面で活躍中。昨年8月、全国商工会議所女性会連合会・第12回女性起業家大賞「最優秀賞」受賞。【024(531)8120】

受験シーズン真ただ中 家族はどう本人に向き合い、 何をしてあげればいいのか？

受験シーズンの真ただ中。受験生本人はもちろん、受験生のいるご家庭は落ち着かないこの時期。家族はどう本人に向き合い、何をしてあげればいいのか？

わが家の中学3年生次男（高校受験）の受験校の選定ですが、本人の希望は「確実にベンチ入り可能な高校で野球をした」ということだけでした。校風や進路なども親

として重要なので、学校説明会に出向き本人の性格や成績などを勘案し、最終的に本人と話し合いをして決めました。

先日、不安の言葉ばかり口にする彼に、私は「どんな結果でも家族は変わらないー本人が安心できる環境づくりを」

日常的にも会話がいろいろありますが、何か重要な事項を決める際はあらかじめ日時を決めて「話し合いの場」を作るようにしています。今回は具体的な選定理由と、合格可能性が何%か、日時まで考えるように言いました。仲の良い友達が行くからとか、何となく大丈夫という曖昧な表現は認めません。本人の話を聞いた上で私の思いも伝えながら、意見の擦り合わせをして決めます。こうして決めると、本人が主導権を持つて決めたように認識されるので本人が納得できますし、後日ぶれることはありません。これは「アサーティブコミュニケーション」というものです。

今の時期、周りは本人が安心できる環境づくりと、体調を気遣ってあげることが一番だと思います。当日の出題や運の良し悪しは多少ありますが、受験は今の積み重ねがすべてです。心身ともに万全に受験当日を迎えてほしいものです。